

里山里海アクティビティ

里海体験実習 in 能登半島

コンサートいしかわ
集中講義

2011年6月17(金)～19日(日)

「里海」をテーマに初企画。現場体験が満載。

赤崎海岸でタコすかしに挑戦

里山里海プロジェクト代表の中村浩二先生が主宰する「里海体験実習」が、6月17日(金)より2泊3日の日程で行われました。金沢大学の学部生、留学生に加え、シテカレッジから一般社会人、能登のプロジェクト関係者などあわせて19名が参加。実習では富山湾、穴水湾、九十九湾で乗船、さらにブーツ着用して海へ入ってのタコすかし体験、磯観察と盛りだくさんでした。



現場実習にむけて事前講義

「いしかわ・能登の水産業～水産資源の管理・漁村の多目的機能について～」と題して、県水産課の田中正隆氏より講義いただきました。6/7(火)四枝記念館にて。



朝3時半スタート。多様な海を巡る長い一日

1日目 プログラム

◆定置網漁業と新しい漁業会社づくり ～見学と講義～

早期3時半から始まる定置網漁と水揚げを見学。「待つ」漁法である定置網の伝統的な知恵と、網あげのチームワーク、そして社長の哲学に基づいた人材教育などを学びました。若手社員との質疑応答も盛り上がりしました。

講師：株式会社佐々波鮎網 勝木健太 氏

◆能登半島の里海 ～講義と磯観察～

館内展示で能登の里海の概略を学んだ後、地域ごとの里海の利用形態について講義をうけました。後半は、海藻の専門家・池森氏の案内で、磯観察。海ぞうめんなど珍しい海藻に出会いました。

講師：のど海洋ふれあいセンター 坂井恵一 氏

◆九十九湾について ～講義と洋上体験～

九十九湾の特徴的な生物について講義を受け、標本室などを見学。ちょうど七尾高校の実習中で、館内は大賑わい。実験所所有の船で九十九湾に出て、海から陸地を眺める貴重な経験もできました。

講師：金沢大学臨海実験所 笹山雄一教授

◆真脇遺跡縄文館

イルカの骨が多数出土している縄文真脇遺跡。「イルカ漁」が行われていたという縄文人の世界、里海との関係を学びました。

講師：真脇遺跡縄文館館長 高田秀樹 氏

◆タコすかし

「釣りキチ三平」のモデルとなった大瀧さんから、「能登のたこすかし」の講義を受けた後、赤崎海岸で実際に体験。たこはまだいなかったなので、秋のシーズンに再チャレンジを誓いました。

講師：能登いきものマイスター第1期修了生 大瀧信男 氏

1日目

定置網見学



定置網の講義

水揚げ見学



九十九湾で磯観察



臨海実験所で洋上体験

タコすかし



縄文真脇遺跡

